

本展3つのみどころ



1 懐石展、当館開館以来の初企画！

静嘉堂において懐石のうつわを中心に取り上げる展示は、一九九二年の美術館開館以来初の企画です！ 懐石では、陶磁器、漆器、ガラスなど様々な素材のうつわが、亭主心尽くしの料理をいっそう引き立てる役割を果たしています。とくに茶人に選ばれてきた陶磁器は多種多様！ 日本のほか、中国、朝鮮半島やベトナム、オランダなど、各国各地のうつわが集います。



《呉州赤絵 魁 字文鉢》

漳州窯

明時代(17世紀前半)

Bowl with a character "Sakigake (the first)" design
Zhangzhou ware, Gosu-aka-e type
China

2 懐石道具の華、向付のさまざまな味わう！

向付は、懐石の最初に出される主菜または副菜を盛りつけるための小鉢や皿で、季節感や亭主の意図などを表現する重要な役割を果たします。様々な料理とうつわが入りする懐石において、常に客人の前に置かれつつける向付は、手に取り顔に近づけて観賞することもできる特別なうつわです。本展では、静嘉堂の所蔵する向付作品から、優品を幅広く展示します。



《阿蘭陀藍絵花鳥文向付》

デルフト窯

オランダ(17世紀)

Mukōzuke bowl with flower and bird design
Delft ware, Holland

3 千利休、秀吉ゆかりの茶道具名品、曜変天目も！

正式な茶会である茶事では、懐石を終えると、中立を経て、濃茶と薄茶を喫する後座へ進みます。本展でも最後の一室は、懐石の後の呈茶をイメージした展示となります。静嘉堂の茶道具コレクションから、懐石の広がり貢献した千利休や、利休の仕えた豊臣秀吉ら、桃山時代の茶人や戦国大名ゆかりの名品を展示します。



右《唐物茄子茶入 付藻茄子》

南宋～元時代(13～14世紀)

Tea caddy, Nasu (eggplant) type,
known as "Tsukumo-nasu", China

左《唐物茄子茶入 松本茄子(紹鷄茄子)》

南宋～元時代(13～14世紀)

Tea caddy, Nasu (eggplant) type,
known as "Matsumoto-nasu", China

美を味あう

懐石のうつわと茶の湯

Where Beauty is Served:
Kaiseki Vessels and Spirit of Tea Ceremony

4/7²⁰²⁶火▶6/14日

※前期・後期で一部作品の展示替えあり

前期：4月7日(火)～5月6日(水・祝)

後期：5月8日(金)～6月14日(日)

開館時間：午前10時～午後5時

※第4水曜日の4月22日(※)、5月27日(※)は
午後8時まで

6月12日(※)、13日(※)は午後7時まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日(ただし5月4日(※)(祝)は開館)

5月7日(※)

入館料：一般1,500円/大高生1,000円

中学生以下無料

障がい者手帳をお持ちの方700円(同伴者1名無料)

主催：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人 静嘉堂)

毎週木曜日は
トークフリーデー
声の大きさを気に
せず話しながらご
鑑賞いただけます。



※予約はこちらから
日時指定
予約優先
※当日券もあります

静嘉堂@丸の内

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階

TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)

<https://www.seikado.or.jp>

関連イベント

◆講演会 ●要予約(詳細はホームページにてご案内します)

「豊臣兄弟と利休の茶会」

2026年 5月16日(土) 14:00～15:30

講師：田中仙堂氏(大日本茶道学会 会長)

定員：200名

会場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ホール丸の内」
(東京都千代田区丸の内2-1-1、明治安田生命ビル低層棟4階)

参加費：無料 ※ただし、本展入館券込み参加券(1,500円) 要予約

協力：明治安田ヴィレッジ

◆担当学芸員によるスライドトーク ●当日整理券配布・当日の入館券必要

開催日：4月19日(土)、4月28日(火)、5月14日(木)、5月31日(日)

いずれも11:00～、14:30～(各回 約40分)

定員：各回40名

会場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ギャラリー」
(東京都千代田区丸の内2-1-1、明治安田生命ビル1F)

協力：明治安田ヴィレッジ

明治安田 CAFE 丸の内とのコラボも予定！ (明治生命館1F・南側)



明治安田CAFE
丸の内



公式サイト



公式サイト



©Koji Fujii/TOREAL

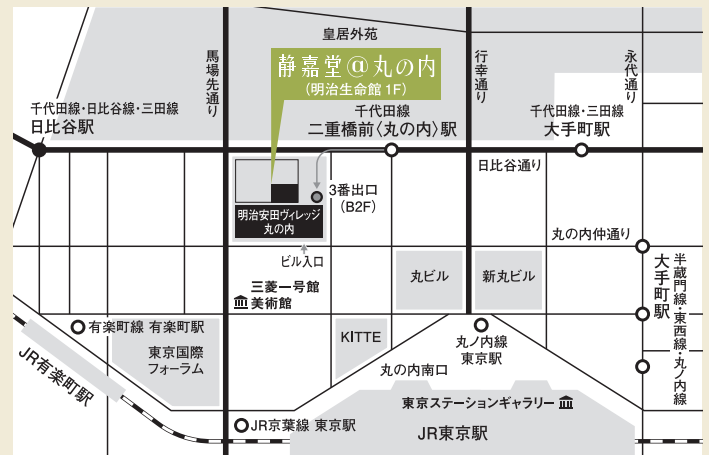


音声ガイド

ナビゲーター

声優 遠藤 淳 さん

ご利用料金 1名様1台700円(税込)



【交通案内】 ※当館に専用駐車場・駐輪場はございません

- 地下鉄千代田線「二重橋前(丸の内)」駅 3番出口直結
- JR東京駅 丸の内南口より徒歩5分
- JR有楽町駅 国際フォーラム口より徒歩5分
- 大手町・丸の内・有楽町地区を結ぶ無料巡回バス「丸の内シャトル」で「明治安田ヴィレッジ・静嘉堂」下車すぐ



〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階

TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル) <https://www.seikado.or.jp>

✕@seikadomuseum

📷@seikado_bunko_artmuseum

次回
展覧会

元禄！師宣劇場
十二ヶ月風俗図巻 大公開

2026年 6月27日(土)▶8月23日(日)

美を味あり

懷石のうわと茶の湯

Where Beauty is Served:
Kaiseki Vessels and Spirit of Tea Ceremony

懷石とは、正式な茶会である茶事の中で、抹茶を喫する前に出される、もてなしの料理。その後には供される濃茶・薄茶をおいしく味わうため、空腹を和らげ、心身を整える食事です。一品ずつ出来立ての料理が運ばれる懷石では、料理にあわせて多種多様なうつわが使用され、客人の目を楽しませます。

本展では、静嘉堂所蔵の「懷石のうつわ」——国内のものばかりでなく、諸外国から輸入された、バラエティ豊かなうつわを展示します。あわせて、懷石の後の呈茶をイメージし、懷石の発展と広がりにも貢献した千利休や、利休が仕えた豊臣秀吉ら、桃山時代の茶人や戦国大名ゆかりの茶道具の名品も展示します。茶事を演出するうつわの洗練された趣、デザインをお楽しみください。



しょうすいしょうちくばいもんそでがたむこうづけ
A 《祥瑞松竹梅文袖形向付》
景德鎮窯
明時代(17世紀前半)
Kimono-sleeve-shaped mukōzuke-dish with pine, bamboo and plum design
Jingdezhen ware, Shonzui type, China

明末の染付の中で“祥瑞”に分類される、日本人注文の高級食器。黒漆塗の折敷の上に飯椀(左)、汁椀(右)、利休箸とともに。

あか え き じ ぼ たんもんむこうづけ
B 《赤絵雄牡丹文向付》
景德鎮窯
明時代(16～17世紀)
Mukōzuke-bowl with pheasant and peony design
Jingdezhen ware, China

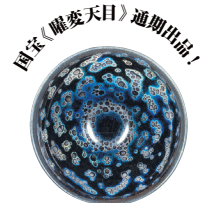
見込みの意匠は染付、外の丸窓には花鳥図。金彩を施す“金欄手”の作品とも通じる意匠。

しょうすいさんすい かちょうもんひるごがたとくり
C 《祥瑞山水花鳥文瓢形徳利》
景德鎮窯
明時代(17世紀前半)
Gourd-shaped Sake bottle with landscape and bird-and-flower design
Jingdezhen ware, Shonzui type, China
盃: 茶葉末釉馬上盃(奥)、青磁平盃(左)、御本手盃(右)

茶懷石の酒器として人気の高い瓢形の徳利。表された詩句とモチーフには、茶人たちの憧れの、中国の文人趣味が反映されている。

いろ え まる もんたいぼち
D 《色絵丸文台鉢》
有田
江戸時代(17世紀)
Dish with high-foot with circle design
Arita (Imari) ware, Japan

染付の鎖文で囲まれた各色の丸文が、大胆なトリミングで配された台鉢。縁に軽やかな歪みをつけた、古伊万里“古九谷様式”の逸品。



はくゆうりん か す ぼち
E 《白釉輪花透かし鉢》
野々村仁清 作
江戸時代(17世紀)
Lobed dish with openwork design
By Nonomura Ninsei, Japan

花形の縁に、大きく透かしを切った仁清の鉢。白釉の流れを装飾に、料理を盛る窪みを作った秀逸なデザイン。

